日本SPF豚協会だより
Report of JAPAN SPF Swine Association 2008.4 第31号

提◆言

ＳＰＦ豚の輪を広げよう

有限責任中間法人日本ＳＰＦ豚協会 副会長
全農畜産サービス株式会社 常務取締役
吉田　修作

日本ＳＰＦ豚協会も40歳、会社でいうと中間管理職である。期せずして任意団体から「有限責任中間法人」という公益法人になった。協会は、まさに発展途上の中間地点にあるといっていい。

豚肉の国内年間生産頭数が約1,600万頭と横ばいの傾向にあって、協会が認定する生産頭数もその約８％と同じ横ばい状態を維持している。国産の豚肉が100％協会認定のＳＰＦ豚になる日を目指して、まだまだ頑張らねばと思う一方で、何故、認定頭数や認定農場が増えていかないのだろうかと、考えさせられることがある。

８％がＳＰＦ豚なら、残りの92％のいわゆるコンベ豚を生産する農場は、ＳＰＦ豚のことをどんな風に考えているのだろう。新築、改築、増築と、今まで随分と豚舎のリニューアルがされてきたはずだ。そのときに「ＳＰＦ豚をやってみよう！」「日本ＳＰＦ豚協会の認定を受けてみよう！」と考えなかったのだろうか？

理由はいろいろと想像される。①ＳＰＦ豚にするメリットが見えない（生産コストが高い？ＳＰＦ豚肉だからといって、高値販売が出来るとは限らない？）②生産成績が良い農場ばかりではなさそうだ③認定基準が厳しくて、ついていけそうにない（立地条件が整わない？認定制度が煩わしい？）④種豚価格が高い⑤ＳＰＦ豚、日本ＳＰＦ豚協会の存在を知らない（そんなはずはない！）。まだまだいろんな理由があるのだろう。一度、コンベ豚生産農場にアンケートでもしてみたい気持ちになる。

さらに、デンマーク、オランダ、米国でＳＰＦ豚生産システムが広く普及しているのは何故だろう。きっと、何かわけがあるはずだ。現地に行って徹底的に調査してみたい衝動に駆られる。安心・安全・美味しいなどを前面に、ＳＰＦ豚肉を支持する消費者の拡大に取り組むことも協会の重要な仕事だろうが、国内生産者、特にコンベ豚農場に対し、日本ＳＰＦ豚協会への参加を強力にアピールすることこそ、中間地点から頂上へ向けてのステップアップになると信じている。

畜産会社や生産者が集まって、こんなに真摯に、まじめに豚肉生産を実践している集団は珍しい。日本ＳＰＦ豚協会は、どこへ出しても恥ずかしくない組織だと思っている。如何せん、輪が広がらないのが残念だ。どこかの知事が「どげんかせんといけん！！」と発言して注目の的になっていたが、協会も更なる発展のために「どげんかせんといけん」時期にきているようだ。

国の公益法人制度改革によって、有限責任中間法人は、平成20年12月１日をもって一般社団法人に自動的に移行するはずだ。もう１つの公益社団法人と区分されるので、従来の社団法人のような「公益性」は持たなくてもよく、協会と会員だけが得する「共益性」、「私益性」を前面に出した活動をしてもよいことになる。突き詰めていうと、税金さえ払えば、自由に利益活動をしてもよいことになる（厳密には、原則課税グループと原則非課税グループに区分される）。施行日の12月１日以降の社員総会で、名称変更などの定款変更の承認を受けるだけで一般社団法人になる。これを契機に、「ＳＰＦ豚の輪を広げる」、「協会の会員を増やす」にはどうしたらいいだろうかを検討しステップアップするための議論の場を、出来るだけ多くの関係者に参加してもらい開催してみてはどうだろうか。

SPF種豚と認定農場の分布

（2008年3月末現在）

表1. 認定農場の分布

飼養母豚数	北海道	東北	関東	甲信越	東海近畿	中四国	九州	合計	母豚総頭数
99以下	2	0	9	1	0	3	1	16	1,184
100～299	8	10	31	6	1	3	11	70	13,147
300～599	3	6	8	2	1	7	8	34	14,372
600～999	2	12	7	2	0	2	5	27	18,839
1,000以上	0	7	4	0	0	1	7	21	24,184
計	15	35	57	11	2	16	32	168	71,726
育成・肥育専門農場	0	3	2	5	0	0	7	17	
合　計	15	38	59	16	2	16	39	185	71,726
母豚総頭数	3.590	23,227	14,327	3,782	792	6,569	19,439	71,726	

表2. 認定農場数および飼養母豚数の推移

年度 / 地域	2003年度		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度	
	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数
北海道	13	3,873	15	4,141	14	4,035	15	4,482	15	3,590
東　北	29	18,628	30	18,170	31	18,949	31	19,018	35	23,227
関　東	59	15,321	59	16,682	57	16,522	57	17,315	57	14,327
北信越	11	3,023	12	3,111	10	2,937	10	3,019	11	3,782
東海近畿	4	1,610	2	983	2	815	2	813	2	792
中四国	21	6,489	21	7,124	21	7,245	20	7,007	16	6,569
九　州	29	13,545	33	17,025	33	19,867	35	21,374	32	19,439
育成・肥育専門農場						11		12	17	
全　国	166	62,489	172	67,236	179	70,370	182	73,028	185	71,726

ＳＰＦ豚認定農場は185（ＧＰ・ＧＧＰ19農場含む）、飼養母豚数は7万2,000頭となった。子豚育成農場・肉豚肥育専門農場戸数は合わせて17農場と増加した。火災などやむを得ない事由により認定休止中の農場については、戸数は集計に含め、飼養頭数は含めない。戸数に対し、飼養頭数が減少しているのはそのためである。地域別にみると、東北地域、甲信越地域の飼養頭数が増加している。

全国の飼養母豚総数87.8万頭（平成19年8月現在）に占める認定農場産ＳＰＦ豚の割合は、約8.1％と前年度と比べ横ばいであった。

ＣＭ認定農場の生産成績

（2007年度）

表1 一貫生産農場

	件数	母豚数	農場回転率		農場飼料要求率		出荷頭数／母豚		Ａ薬品費／肉豚		生産指数
	123	平均	実績	指数	実績	指数	実績	指数	実績	指数	
基準値			1.70	15.00	3.19	25.00	21.35	40.00	286	20.00	100.00
A	31	378	1.95	17.18	3.04	26.02	22.60	42.34	54	36.19	121.85
B	31	406	1.72	15.21	3.28	24.31	20.84	39.04	131	30.81	109.38
C	31	284	1.63	14.35	3.34	23.79	19.39	36.32	227	24.14	98.54
D	30	488	1.62	14.27	3.38	23.49	19.21	35.99	380	13.42	87.17
最高成績			2.35	20.74	2.74	28.53	26.83	50.27	0	40.00	135.67
最低成績			1.11	9.79	4.12	17.71	15.62	29.26	448	8.68	81.79
平均値		388	1.70	15.26	3.26	24.44	20.52	38.44	197	26.25	104.38

表2 繁殖専門農場－II（分娩・離乳後、子豚を育成し出荷している農場）

	件数	母豚数	分娩回数／年		離乳頭数／母豚		出荷子豚数／母豚		A薬品費／子豚		生産指数
	14	平均	実績	指数	実績	指数	実績	指数	実績	指数	
基準値			2.30	20.00	22.53	20.00	21.43	40.00	282	20.00	100.00
A	4	984	2.34	20.35	21.95	19.49	20.94	39.08	49	36.54	115.45
B	4	710	2.37	20.61	22.35	19.84	21.15	39.47	178	27.37	107.29
C	3	480	2.30	19.98	21.58	19.16	19.85	37.06	242	22.87	99.07
D	3	169	2.20	19.13	20.57	18.26	17.03	31.79	212	24.94	94.12
最高成績			2.48	21.57	24.46	21.71	23.67	44.17	33	37.63	116.96
最低成績			1.92	16.73	17.54	15.57	15.31	28.57	368	13.92	98.33
平均値		641	2.31	20.13	21.74	19.30	20.05	37.43	161	28.58	105.43

表3 繁殖専門農場－I（分娩・離乳後、直ちに子豚を出荷している農場）

	件数	母豚数	分娩回数／年		離乳頭数／母豚		出荷子豚数／母豚		A薬品費／子豚		生産指数
	4	平均	実績	指数	実績	指数	実績	指数	実績	指数	
基準値			2.30	20.00	22.53	20.00	22.53	40.00	196	20.00	100.00
平均値		980	2.39	20.79	24.82	22.03	24.82	46.47	120	31.51	120.65

表4 子豚育成農場（繁殖－Iの離乳子豚を導入し、肥育用素豚として出荷している農場）

	件数	出荷頭数	1日平均増体重(g)		出荷率		A薬品費／子豚		生産指数
	2		実績	指数	実績	指数	実績	指数	
基準値			445.00	40.00	95.00	40.00	98	20.00	100.00
平均値		45,106	554.96	49.88	98.54	41.49	60	27.75	119.12

表5. 肥育専門農場

	件数	出荷頭数	農場飼料要求率		出荷率		A薬品費／肉豚		生産指数
	11	平均	実績	指数	実績	指数	実績	指数	
基準値			3.30	55.00	97.50	25.00	125	20.00	100.00
A	3	14,270	3.05	59.11	98.80	37.97	97	24.53	121.61
B	3	16,220	3.34	54.28	97.82	28.23	133	18.76	101.27
C	3	4,375	4.03	42.95	96.77	17.67	100	23.99	84.61
D	2	4,161	3.76	47.45	97.02	20.19	156	15.11	82.74
最高成績			2.96	60.67	99.20	42.00	12	38.05	137.71
最低成績			4.61	33.23	95.00	0.00	185	10.37	82.25
平均値		10,265	3.53	51.26	97.65	26.54	118	21.10	98.90

経営形態が多様化してきたため、今回より繁殖農場を子豚の出荷時期によって繁殖－I、繁殖－IIに分類し、子豚育成農場とともに別途集計した。

表6. 肉豚または子豚1頭当たりA薬品費使用

一貫生産農場

薬品費／肉豚	農場数	平均金額
100円未満	42	54
100円～199円	27	139
200円～299円	19	246
300円～399円	21	358
400円～499円	14	428
農場数	123	
最　高		0
最　低		448
上位25%の平均		54

繁殖専門農場・子豚育成農場

薬品費／子豚	農場数	平均金額
100円未満	6	53
100円～199円	9	139
200円～299円	4	235
300円～399円	1	368
400円～499円		
農場数	20	
最　高		33
最　低		368
上位25%の平均		104

肥育専門農場

薬品費／肉豚	農場数	平均金額
100円未満	3	42
100円～199円	8	147
200円～299円		
300円～399円		
400円～499円		
農場数	11	
最　高		12
最　低		185
上位25%の平均		97

連載
豚の細菌病②

豚丹毒

東京農業大学教授　山本　孝史

豚丹毒は、かつては家畜伝染病（いわゆる法定伝染病）に指定されていましたが、1998年の家畜伝染病予防法の一部改正により、届出伝染病になりました。有効な予防や治療により殺処分等を行う必要がなくなったからです。しかし、豚の細菌性疾病のなかで撲滅すべき重要な病気であることにかわりはありません。豚丹毒という名前は、ヒトの丹毒に似た豚の病気ということからつけられました。ヒトの丹毒は、皮膚に境界明瞭な発赤、発疹ができ、全身症状を伴う病気です。ヒトの丹毒の原因は、連鎖球菌ですが、豚丹菌は学名を*Erysipelothrix rheusiopathiae*といい、分類学的に異なる菌です。しかしヒトにも感染して「類丹毒」を起こします。ちなみに「丹」というのは、丹頂鶴というように「赤」を意味しますし、rheusiopathiaeも赤い病気という意味で、症状の特徴を表しています。

病型とその特徴：豚丹毒は、症状と病変の違いにより、1)　敗血症型、2)　蕁麻疹型、3)　心内膜炎型、4)　関節炎型に分けられます。敗血症型では、42℃以上の発熱が必ず見られるほか、突然食欲がなくなり、横臥して呼吸促迫し、ふるえ、嘔吐を示すことが多く、また、全身の皮膚に淡紅色～暗赤色の班紋が出現し、これは次第にチアノーゼへと変化して死に至ります。敗血症型は、ほとんどが血清型1a型菌によるものです。肉眼病変は、胃の幽門部から十二指腸にかけての充血～出血以外には何の所見も認められないのが特徴です。蕁麻疹型は、40～41℃の発熱に続いて肩、背、頭、臀部などに淡紅色の丘疹が出現します。丘疹は、菱形疹とよばれる一辺2～3cmの四角形が最も典型的です。この蕁麻疹型における丘疹や敗血症型で見られる皮膚の変化は、体表が汚れているとわからないことが多いので、必要なら水で洗って観察します。蕁麻疹型のほとんどは、血清型2型菌によるものです。心内膜炎型では、心臓弁膜の付け根にカリフラワー状～イボ状の腫瘤（肉芽組織の増生）が認められますが、臨床症状は認められませんので、生前に診断されることはなく、と畜検査時に見いだされるのみです。関節炎型は、敗血症型に耐過したあとで発症することもあり、敗血症型とは無関係に関節炎のみを発症することもあります。関節周囲の腫脹、熱感、硬化などが起こりますが、跛行を示さなければ見過ごしてしまい、と畜検査時に初めて見いだされることもまれではありません。

生ワクチン投与によりプライマリSPF豚に発現した強い接種反応（山本原図）

類症鑑別：敗血症型の症状は、豚コレラとよく似ていますが、豚コレラでは同時に一群の豚が発症することが多いのに対して、豚丹毒ではおおむね散発的です。しかし、時として豚丹毒も同時多発的に発症することがあり、このような場合には区別がつかず、生前診断には血液培養が必要です。剖検所見では、豚コレラでは脾臓の梗塞が見られますが、豚丹毒では認められません。心内膜炎は、レンサ球菌や*Arcanobacterium pyogenes*によっても、また関節炎は、レンサ球菌や*Mycoplasma hyosynoviae*によっても起こりますが、これらとの鑑別は、菌分離によって行います。

治療と予防：豚丹毒菌には、ペニシリン系薬剤がきわめて有効です。したがって、敗血症型や蕁麻疹型の本病が疑われたら、直ちに体重1kgあたり５～10万単位の持続性ペニシリンを3～5日間、筋肉内注射します。症状が消えても3日間は投与しないと、心内膜炎や関節炎に移行する危険性があります。予防には、生ワクチンと不活化ワクチンの２種類市販されていますが、生ワクチンは、ＳＰＦ豚では強い接種反応を起こすことがあります（写真参照）。生ワクチンは、コンベンショナル豚でも接種部位に発疹・丘疹が出現し、これが出現しないと免疫はできません。しかしＳＰＦ豚では、接種部位以外にも発疹・丘疹が現れることがあります。この際、元気消失、食欲不振、発熱等の症状が長引くようであればペニシリンで治療します。

ト◆ピ◆ッ◆ク◆ス

赤池協会会長が日本養豚学会功労賞を受賞

３月17、18日の2日間、神奈川県厚木市の東京農業大学厚木キャンパスを会場に開催された第89回日本養豚学会大会において、当会の赤池洋二会長が第2回養豚功労賞を受賞いたしました。

この賞は「養豚に関する学術に対する貢献、養豚産業に対する貢献が顕著な会員」（日本養豚学会細則規定）に贈呈されるものです。会長は「わが国におけるＳＰＦ養豚システムの開発と普及」が評価され、今回の受賞となりました。17日午後、養豚学会の総会終了後に、表彰式が執り行われました。

栗原良雄・日本養豚学会会長から表彰状と副賞の豚のブロンズ像を授与された赤池会長は、受賞の挨拶で、「日本ＳＰＦ豚協会が設立されて40年目を迎えます。まったくの未知の世界への挑戦でした。技術者と生産者が一体となって試行錯誤を繰り返し努力した結果が本日の受賞につながったと考えております。この名誉は私個人ではなく、代表としていただいたものとして、生産者および関係者と喜びをかみしめたい」と述べました。

栗原養豚学会長（左）より副賞のブロンズ像を授与される赤池洋二協会会長

ＳＰＦ養豚と、赤池会長の長年にわたる貢献が、養豚学会から高く評価される快挙となりました。

会員／読者のページ・会員／読者のページ・会員／読者のページ

食べ物を大切にするということ

㈱シムコ　**中野目恵美**

私が異業種からＳＰＦ豚業界に入って早６年経ちました。まだまだ分からない事ばかりです。本社での事務担当ということもあり、農場で飼育されている豚を実際に見たこともありません。

この業界に入るまでは、食べ物のもとの形や、食卓に上がる前の行程など考えてもみませんでした。豚肉生産に関わる身になると、たくさんの行程を経て生産される食べ物が大量に捨てられている現実は、とても悲しいことです。

食品に記載されている賞味期限や消費期限も原因の一つに上げられると思います。かくいう私も、必ずといっていいほど賞味期限を確認し、つい少しでも期限の長いものを選んで買ってしまいますが、こうした期限に振り回されているのは、消費者だけでなく製造･販売業者も同様なのではないでしょうか。

このところ次々に明らかになっている食品の偽装問題も、まさしく賞味期限、消費期限に振り回された結果の一つだと思います（もちろん、社員に責任をおしつけるような経営者が自社商品を大事にするわけがない、とも思いますが）。

昔は、賞味期限などに過剰に反応することもなく、自分自身の判断で大丈夫と思えば食していたのだと思います。本来持つ人間の本能、直感、知恵などが働いていたのでしょう。もちろん、偽装することはあってはならないことですが、ちょっと期限を長くしただけで大騒ぎになる世の中の、食べ物に対する感覚もどうかと思います。

賞味期限、消費期限は、商品を買った消費者が自分自身でまだ食べられるかどうかを判断する、目安程度でいいのではないか、と自分では思っています。まだ十分食べられるものを捨てることに鈍感になっている、このことの方が問題ではないでしょうか。

そんな中、あるコンビニエンスストアが、消費期限の迫ったお弁当やパンやおにぎり、惣菜などを食堂に無償で提供し、その店が定食のメニューとして再利用、破格の値段でお客に出す、という話を聞きました。本来なら廃棄されてしまう食品を利用し無駄なく運用していて、とても立派だと思います。

また、あるＮＰＯ団体が、スーパーなどへの流通過程で、ダンボールが破れただけで中身に異常がない物やへこんだ缶詰など、売り場に並べられることなく返品・廃棄するしかなかった食品を引き取り、福祉施設などに無償で提供しているという話もあります。食べ物を大事にしている現場の姿を見ると、何だかほっとします。

一粒の米には、７人の神様がいるといいます。農畜産業に携わる者として、その神様に怒られないよう、日々食べ物を大事にしていきたいですね。

紹介●ＳＰＦのお店④　ＪＡ全農のお店

東京都武蔵野市吉祥寺南町2-13-8
www.zennoh.or.jp/bu/hansui/omise

吉祥寺といえば、住んでみたい町のアンケートなどで必ずといっていいほど上位にランキングされる、人気の町です。井の頭公園がすぐそばに広がる住宅街に全農の直営店舗「ＪＡ全農のお店」はあります。

オープンは平成16年12月、国産の農畜産物のみ2,000アイテム以上の商品を扱っています。野菜は地元ＪＡの地場物も。輸入食品の安全性が取りざたされる中、国産品にこだわったことが消費者の信頼につながり、順調に売上を伸ばしているそうです。「価格競争もしない、チラシも通常打たない、それでもずっと右肩上がり、が自信です」と樋口修一店長。

豚肉は協会認定農場・十和田湖高原ファーム（秋田県）産の「桃豚」を販売しています。「最初は正直苦戦しました。１年後ぐらいから口コミで評判が広がり、リピーターも増えて今では当初の２.５倍の売上です」と開店当初から精肉を担当する鈴木洋一さんはいいます。「くさみもなく、最高の豚肉です。商品用カット処理を行うブースの臭いも少ないですよ」。半丸のセット仕入とあって、部位によっては苦労もありそうですが、焼豚を店内で手作りするなど惣菜としても販売、これも好評だそうです。今後は桃豚の加工品も取り扱いたいとの抱負も。

樋口修一店長（左）と精肉担当の鈴木洋一さん

高級スーパーや百貨店などがひしめき合う地域での、着実な歩みが大変心強く感じられました。お近くに行かれた際はぜひお立ち寄りになってはいかがでしょうか。

●協会からのお知らせ●

●北海道および九州でも地域研修会を実施　関東地区、中・四国地区は今年度継続で

昨年秋の東北地区に続き、北海道地区（ハイコープ豚クラブと共催）および九州地区で認定農場対象の地域研修会を開催いたしました。2月27日に札幌市・ホテルモントレ札幌で行われた研修会には認定農場10農場含む60名が、3月21日、熊本市・水前寺共済会館の研修会には認定農場・ピラミッド担当限定で58名と、それぞれ予想を上回る参加をいただきました。

札幌会場

熊本会場

関東地区、中・四国地区についても今年度上半期の開催を予定しております。当該地域の皆さまには詳細決定次第、順次ご連絡いたしますので、ぜひご参加下さい。

●認定農場用Ｔシャツ・キャップを販売中

すでにチラシ等でご案内の通り、認定農場限定Ｔシャツ・キャップを好評発売中です。農場名入りのオリジナル品も承りますので、ぜひご検討下さい。ご不明な点は事務局までお問い合わせ下さい。

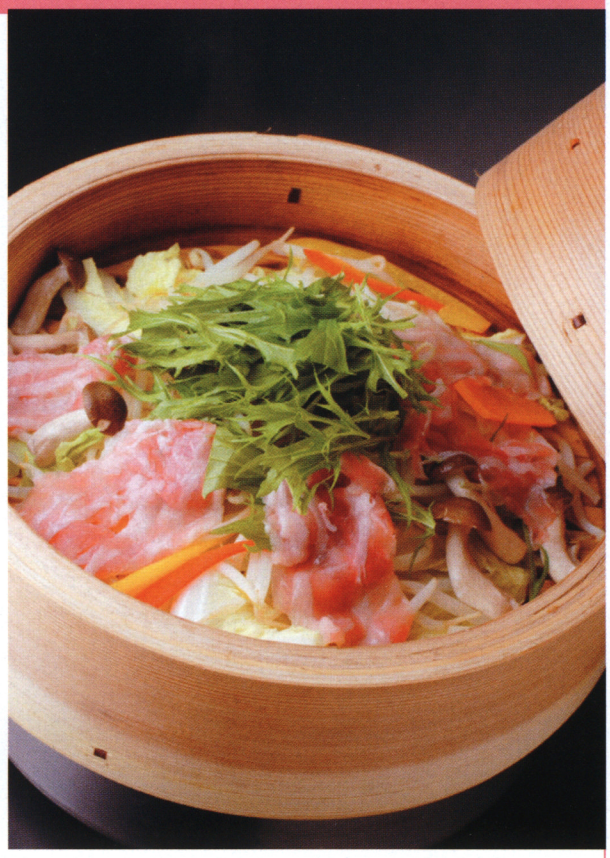
●認定委員の交代

日本ハイポーピラミッドの協会認定委員が、立石雅男氏から風見清氏に代わりました。

かんたん、おししい　いのこ家林シェフおすすめ、ＳＰＦポークレシピ

春キャベツと豚肉のせいろ蒸し

レシピ提供：いのこ家社長・総料理長・林　勝



春野菜の代表格、春キャベツとＳＰＦポークの取り合わせです。キャベツの甘みと豚バラのうま味がギュッと凝縮される上に、カロリーも抑えられるヘルシーな逸品です。せいろがないときは、フタ付き鍋とザルで代用できます。ぜひお試し下さい。

材料（4人前）

ＳＰＦ豚バラ薄切り肉　600g
春キャベツ　2分の1個
水菜　2分の1束
しめじ　1パック
パプリカ赤・黄　少々
ポン酢
大根おろし　少々
刻みねぎ　少々

つくり方

① キャベツは食べやすい大きさに切ってせいろに入れます。
② しめじを小房にほぐし加え、色どりにパプリカを散らします。
③ 鍋にお湯を沸かし、せいろをセットします。
④ 5分くらい蒸したら、バラ肉と水菜を入れてさらに30秒ほど蒸したら完成です。
⑤ ポン酢に大根おろしと刻みねぎをお好みで入れ、つけながら召し上がって下さい。

【林シェフのひとこと】
ＳＰＦポークの特色を生かしたシンプルなお料理です。バラ肉を入れたら蒸し過ぎないようにするのがポイントです。

●ＳＰＦ豚研究会から●

●研究会が6月27日に開催されます

第18回日本ＳＰＦ豚研究会が6月27日(金)、東京大学・山上会館にて開催されます。詳細は**日本ＳＰＦ豚研究会事務局**（伊藤忠飼料㈱研究所内）までお問い合わせ下さい。

TEL：0287―64―3652　FAX：0287―63―8384

●認定情報●

●平成20年度認定農場

[3月認定](有効期間：平成20年3月6日から21年3月31日まで)

北海道・ＪＡ全農種豚開発センター、**秋田県**・㈲十和田湖高原ファーム、**宮城県**・サンエス丸森農場、**茨城県**・㈲中村畜産、**千葉県**・飯田武雄養豚場、石毛章俊養豚場、石上博養豚場、平野英夫ＳＰＦ豚農場、鈴木良雄養豚場、飯田養豚、㈲ピギー・ジョイ、㈱シムコ館山事業所、㈲伊藤養豚飯岡農場、㈲鏑木ピッグファーム、**長野県**・(農) エスピーエフこがねや第二農場、全農長野ＳＰＦ繁殖センター、ＪＡ大北白馬アルプス農場、**富山県**・㈱シムコ八尾育種改良センター、**島根県**・奥出雲ファーム㈲、**山口県**・日本ハイポー㈱山口農場、**愛媛県**・ＪＡえひめアイッパクス㈱天貢農場、**熊本県**・全農畜産サービス㈱西日本原種豚場、新古閑養豚農事組合法人、㈲七城ＳＰＦファーム、㈲やまとんファーム、**鹿児島県**、鹿児島いずみ畜産㈱出水農場、鹿児島いずみ畜産㈱阿久根農場　（以上27農場）

※次回認定委員会は平成20年6月5日、6日の予定

SPFのひと

山本ファーム 鹿嶋

山本　芳嗣（よしつぐ）さん

●茨城県鹿嶋市

父の農場を継ぎ さらなる飛躍に意欲十分

山本ファーム鹿嶋のある茨城県鹿嶋市は、東に鹿島灘、西は北浦に面し、平成7年に鹿島町と大野村の合併により誕生しました。気候は温暖で積雪はほとんどなく、飼料基地のある鹿嶋市まで約30分です。平成3年にはＪリーグ「鹿島アントラーズ」が誕生し、14年にはサッカーW杯の開催地になるなど、まさに「サッカーのまち」のイメージが定着しています。山本ファームも鹿島スタジアムから車で約10分のところにあります。

芳嗣さんは38歳。12年間地元でサラリーマン生活をしていましたが、平成15年、お父さんの眞暉（まさてる）さん（67歳）から養豚業継承の話があり、後継者となることを決意、現在に至っています。

眞暉さんは昭和35年ごろから養蚕との兼業として養豚を始められ、40年後半には母豚100頭規模の一貫生産となったそうです。今まで、第一次・第二次オイルショックや肉豚のと畜制限等、厳しい時期もありましたが、なんとか工夫しながら乗り越えてこられました。

ＳＰＦ種豚の導入は昭和62年、清水港飼料の紹介により住商飼料畜産（現サンエスブリーディング）から始められました。きっかけは、これからは病気との闘いで、いつまでも薬剤に頼っているわけにはいかない、と思ったから。これは、長年麦やさつまいもなどの栽培を手掛けていて感じたことだそうです。協会認定取得にあたっては、出荷先の茨城中央食肉公社と販売先の鎌倉ハム村井商会の理解と協力があってのことと感謝されていました。

芳嗣さんは、奥さんのめぐみさんと3歳になるお嬢さんとの3人家族ですが、本誌が皆さんのお手元に届く頃には「もう一人家族が増えるんです」とうれしそうにおしゃっていました。一方で「さらにがんばらなければ…」とも。

趣味はゴルフと車ですが、最近はゴルフの時間もなかなかとれず、サラリーマン時代のようにはいかないそうです。スコアは聞きそびれてしまいました。

現在の母豚稼動規模は140頭。増頭計画について聞いてみると「現在の設備がかなり老朽化しているので、一通りやり直す方を先に実行したい、増頭はそれから考えます」と子豚管理用簡易施設を導入するなど意欲的です。

芳嗣さんの弟の徒与彦（とよひこ）さんも茨城県行方市で180頭一貫農場を経営されていますが、認定取得をめざし設備等の改善を急いでいます。

親子・兄弟が力を合わせて前向きに努力される姿に、厳しい環境の中、ＳＰＦ豚認定農場として乗り切っていかれることと確信しました。

（㈱サンエスブリーディング　佐野　公春）

編集後記　新年度を新たな気持ちで迎えられていることと思います。わが国の畜産業界は、飼料の高騰をはじめとする向い風と輸入食材への不信感から国産志向が強まるという追い風の、乱気流に巻き込まれる年度になることと思われます。追い風を確実に帆に受け、向い風の影響を影響を最小限にするためには、生産と生産物の信頼性を高め、農場要求率、薬品費の改善を達成することです。年度末にはよい決算となって笑えるようがんばりましょう（哲）

日本ＳＰＦ豚協会認定農場産シール

このマークは
有限責任中間法人
日本SPF豚協会 の
登録商標です

日本SPF豚協会だより
第31号　2008年4月1日発行（季刊）
発　行　有限責任中間法人 日本ＳＰＦ豚協会
〒101-0032　東京都千代田区岩本町1-8-2
TEL.03-5835-5375　FAX.03-5835-5376
e-mail：j.spf.a@nifty.com
http://www.j-spf.com/
発行人　赤池　洋二
編集人　林　　哲